



高野線全線開通80周年を迎えます！

おかげさまで汐見橋～高野山間（鋼索線含む）は全線開通80周年を迎えます

南海電鉄（本社：大阪府中央区、社長：亙 信二）では、6月29日（火）に高野線全線（汐見橋～高野山駅間・鋼索線含む）が開通80周年を迎えることを記念して、各種イベントを開催するとともに、あわせて新グッズを発売します。

高野線は、高野山参詣客輸送のため設立した高野鉄道が、明治31年に開通した大小路（現：堺東）～狭山間が始まりです。山岳区間の難工事を乗り越え、昭和4年に極楽橋駅まで、その翌年には鋼索線（ケーブルカー）が開通。30年以上の歳月を経て参詣鉄道としての目的が達成されました。当社では、記念事業を通じて、これまでお客さまと歩んできた歴史を振り返るとともに、これからもお客さまに高野線および当社に愛着を持ってご利用いただきたいと考えています。

<高野線全線開通80周年記念事業一覧>

- 1．高野線全線開通80周年記念展の開催
- 2．2300系ミュージアムトレインの運行
- 3．高野線全線開通80周年ヘッドマークの掲出
- 4．高野線・鋼索線全線開通80周年記念入場券の発売
- 5．高野線全線開通80周年記念にあわせた新グッズの販売

詳細は別紙のとおりです。



丹生川橋梁（九度山～高野下駅間）を走行する特急「こうや」

別紙

1. 「高野線全線開通80周年記念展」について

- (1) 展示期間 平成22年7月1日(木)～11月30日(火)
難波駅での展示は8月16日(月)～9月1日(水)を除きます。
- (2) 場 所 難波駅2階中央改札口(改札内)および極楽橋駅構内
- (3) 内 容
難波駅

写真パネルの展示

主要駅をはじめとする高野線の駅舎や、歴代の特急「こうや」、山岳区間を走る歴代の車両などの写真パネルで、高野線の歴史を振り返ります。

映像コーナーの設置

映像コーナーを設け、弘法大師御入定1100年御遠忌大法会の際(大正後期～昭和初期)に撮影された高野山参詣風景を放映します。

ヘッドマークの展示

平成9年まで高野線を走る列車に実際に取り付けていた懐かしのヘッドマークのレプリカを展示します。
極楽橋駅

山岳区間を走る歴代の車両たち

橋本～極楽橋駅間は、50% (パーミル) の急勾配とともに曲線半径100mの急カーブ、24ものトンネルが連続する国内有数の険しい山岳区間です。この険しい山岳区間を走る歴代の車両を写真パネルで紹介します。

ケーブルカーの歴史

建設中と完成時の様子、往年と現在の姿を織り交ぜながら、鋼索線の今と昔を写真パネルで紹介します。

こうや花鉄道沿線今昔

当社が「こうや花鉄道」プロジェクト()として沿線の魅力向上に取り組んでいる橋本～高野山駅間の沿線の今と昔を写真パネルで紹介します。

() 「こうや花鉄道」プロジェクトについて

「こうや花鉄道」プロジェクトとは、高野山旅行の「楽しさ」や「期待感」を創出するため、当社が橋本～高野山駅間で取り組んでいるプロジェクトです。これまでに「花屏風」(下古沢駅、高野下駅)、中古沢橋梁展望デッキ(下古沢～上古沢駅間)、九度山真田花壇(九度山駅)を設置しました。



デ101形(昭和3年製造)



高野山駅(昭和5年ごろ)



中古沢橋梁(昭和初期)

2. 「2300系ミュージアムトレイン」について

- (1) 掲出期間 平成22年7月1日(木)以降順次～11月30日(火)ごろまで
- (2) 車両 橋本～極楽橋駅間を運行する2300系(2両4編成)
- (3) 内容

2300系の車内吊りと額面(一部を除く)を使用し、高野線の車両や沿線風景をポスターで紹介します。

高野線を走る歴代の車両たち

高野線を走る歴代の車両をエピソードとともに紹介します。

こうや花鉄道沿線今昔

当社が「こうや花鉄道」プロジェクトとして沿線の魅力向上に取り組んでいる橋本～高野山駅間の沿線の今と昔を紹介します。



ヘッドマーク付き2300系
ミュージアムトレイン(イメージ)

3. 「高野線全線開通80周年ヘッドマーク」について

- (1) 掲出期間 平成22年7月1日(木)以降順次～11月30日(火)ごろまで
- (2) コンセプトおよび掲出列車

高野線のラインカラーの「緑」、特急「こうや」と高野山の根本大塔をイメージした「赤」を使用しています。

漢数字のヘッドマークについて

コンセプト

末広りの漢数字「八」を使用することで、高野線の発展を願うとともに、高野線の終着地「高野山」の山並みをイメージしています。また、背景の縦横の線は線路をイメージしています。

掲出列車

橋本～極楽橋駅間を運行する2300系(4編成)
アラビア数字のヘッドマークについて

コンセプト

滑らかなラインを使用し過去から未来へと続いていく高野線をイメージしています。「th」の下の緑は、高野山の自然をイメージしています。

掲出列車

難波～橋本駅間を運行する一部の列車



4. 「高野線・鋼索線全線開通80周年記念入場券」について

(1) 内 容

高野線と鋼索線の起点・終点である「汐見橋駅」「極楽橋駅」「高野山駅」の3駅の硬式入場券がセット。記念台紙は、昭和初期に撮影された中古沢橋梁（下古沢～上古沢駅間）の写真や、かつて高野線を走っていた車両の写真、高野線の年表などをデザインしています。

(2) 発売期間 平成22年6月29日（火）
～8月31日（火）

売切れ次第、発売を終了します。

(3) 発売場所 各駅窓口（無人の場合を除く）

(4) 発 売 額 1セット 450円（入場券150円×3枚）

(5) 発売部数 限定2,500セット

(6) 有効期間 入場券は、平成22年6月29日（火）から8月31日（火）までの入場時刻から2時間以内で1回に限り有効となります。



5. 高野線全線開通80周年記念にあわせて発売する新グッズについて

(1) ダイヤグラムマウスパッド

内 容

高野線のダイヤグラムと、現在高野線を走る車両の中で最も古い6000系車両をあしらっています。光学式・ボール式マウスのどちらにも対応しています。

サイズ：縦150×横170×厚さ0.6mm

ダイヤグラムは平成19年版で、現在のものではありません。

発売開始日 平成22年7月1日（木）

発売価格 900円

発売場所 難波駅サービスセンター（難波駅2階中央改札口）、ナスコプリュス（なんば北口3号店、石津川店、和歌山市駅店、林間田園都市店）



(2) ダイヤグラムマグカップ

内 容

マグカップの外側には高野線のダイヤグラムを、内側には6000系車両をあしらっています。京都の有名陶磁器店「たち吉」製です。

サイズ：直径78×高さ85mm

ダイヤグラムは平成19年版で、現在のものではありません。

発売開始日 平成22年7月1日（木）

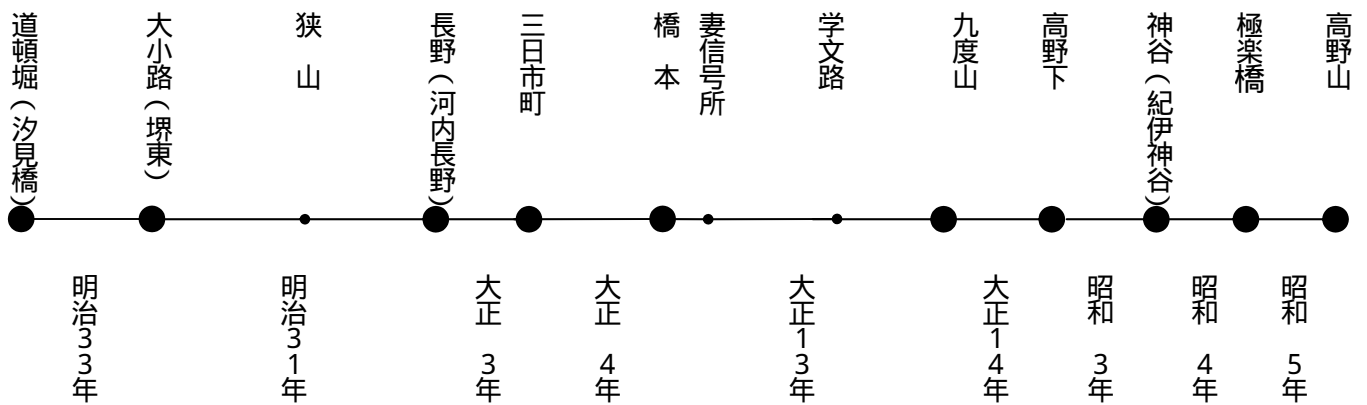
発売価格 800円

発売場所 難波駅サービスセンター（難波駅2階中央改札口）、ナスコプリュス（なんば北口3号店、石津川店、和歌山市駅店、林間田園都市店）



< 参 考 > 高野線全線開通のあらし

- 明治29年 高野鉄道(株)設立
- 31年 高野鉄道(株)大小路(現:堺東)~狭山間開通
高野鉄道(株)狭山~長野(現:河内長野)間開通
- 33年 高野鉄道(株)道頓堀(現:汐見橋)~大小路(現:堺東)間開通
- 40年 高野登山鉄道(株)設立
高野登山鉄道(株)が高野鉄道(株)を吸収合併
- 大正 3年 高野登山鉄道(株)長野(現:河内長野)~三日市町間開通
- 4年 高野登山鉄道(株)三日市町~橋本間開通
高野登山鉄道(株)が大阪高野鉄道(株)に改称
- 6年 高野大師鉄道(株)設立
- 11年 南海鉄道(株)が大阪高野鉄道(株)、高野大師鉄道(株)を合併 高野線として営業開始
- 13年 高野線 妻信号所(後に廃止)~学文路間開通
高野線 学文路~九度山間開通
- 14年 高野線 難波~九度山間直通運転開始
高野山電気鉄道(株)設立
高野線 九度山~高野下間開通
- 昭和 3年 高野山電気鉄道(株)高野下~神谷(現:紀伊神谷)間開業
- 4年 高野山電気鉄道(株)神谷(現:紀伊神谷)~極楽橋間開業
高野線 全列車を難波から発着開始
- 5年 高野山電気鉄道(株)極楽橋~高野山間開通(鋼索線完成)
- 7年 高野線が高野山電気鉄道(株)と直通運転を開始
- 22年 高野山電気鉄道(株)が南海電気鉄道(株)に改称
旧南海鉄道所属事業を譲受、南海電気鉄道(株)として新発足



以 上